ISSN 0469-4767

名古屋大学

国語国文学

106

2013年11月

お伽草子『ちごいま』の柏木物語受容 …… 鹿谷祐子（1）
『好色五人女』樽屋おせんをめぐる巷説について …… 堅田陽子（17）
「厚化粧」の田村俊子 ── つくる／つくられる女作者 ── …… 王　勝群（31）
書き換えられる〈父〉── 森茉莉『甘い蜜の部屋』と「しんかき」── …… 西原志保（45）
豊島与志雄と中国 ── ある汎アジア主義的な心情を中心に ── …… 張　　鈴（59）

書評　阿部泰郎著『中世日本の宗教テクスト体系』 …… 高橋　亨（73）

新刊紹介　山下宏明著『『平家物語』入門　琵琶法師の「平家」を読む』 …… 横山知恵（80）

名古屋大学

国語国文学会

編集後記

会誌一〇六号をお届けします。日本文化学も含めて文学に関する研究論文が五編そろいました。日本語学の論文の不在が寂しいのですが、会員諸氏には限られた投稿機会を有効に生かして頂きたく要望します。引き続き精力的な投稿をお願いします。

平成二十五年度ということは、平成初年生まれの大学院生が学位を取得しようとする時期になったということです。昭和の文学が研究対象になりつつあることが論文の題名からも知られます。日本語学の分野では、現代語が研究対象になって久しいことですが、最近は、昭和五〇年代の学説も研究対象に取り上げられるようになっています。昭和の文献が規範的テクストとして注釈の対象となっているのでしょう。とはいえ、限りなく現代に近い事象を対象とする場合であっても、方法論の源泉が古典古代研究にあることに変わりありません。古典の現代的意義もそこにあるわけです。神宮（内宮）遷御の翌日に認めました。

名古屋大学国語国文学　第百六号

印　刷　平成二十五年十一月十日
発　行　平成二十五年十一月十日
編　集　名古屋市千種区不老町
名古屋大学文学部内
名古屋大学国語国文学会
（代表）釘　貫　亨
〈振替　00860－0－19333〉
TEL（〇五二）七八九－二二九二
内線二二九二

印刷所　名古屋市西区那古野一－二一－一四
株式会社　カ　ミ　ヤ　マ
TEL（〇五二）五六五－一一一八